

平成 29 年 5 月 31 日

平成 28 年度 委託研究開発成果報告書

I. 基本情報

- 事業名： (日本語) 長寿・障害統合研究事業  
(英語) Longevity / disability comprehensive research project
- 研究開発課題名： (日本語) 地域づくりによる介護予防を推進するための研究  
(英語) A research for improving care prevention services by developing communities
- 研究開発担当者 (日本語) 国立大学法人千葉大学 予防医学センター 教授 近藤克則  
所属 役職 氏名：  
(英語) Center for Preventive Medical Sciences and the Graduate School of  
Medicine at Chiba University.  
Professor of Social Epidemiology and Health Policy,  
Kondo Katsunori
- 実施期間： 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
- 分担研究 (日本語) プロトコール作成, 神戸市担当  
開発課題名： (英語) Protocol preparation, Kobe City charge
- 研究開発分担者 (日本語) 国立大学法人 東京大学 准教授 近藤尚己  
所属 役職 氏名：  
(英語) The University of Tokyo,  
Associate Professor of Social Epidemiology and Public Health / Chief  
of the Department of Health Education and Health Sociology, The  
Graduate School of Public Health,  
Naoki Kondo
- 分担研究 (日本語) 評価手法開発, 東北地方担当  
開発課題名： (英語) Evaluation method development, Tohoku district charge

研究開発分担者 (日本語) 国立大学法人 東北大学 准教授 相田 潤  
所属 役職 氏名: (英 語) Tohoku University Graduate School of Dentistry  
Associate Professor of Department of International and community  
oral health, Jun Aida

分担研究 (日本語) 「見える化」システムの改善提案, 東海市担当  
開発課題名: (英 語) Improvement proposal of 'visualization' system, Tokai municipal charge

研究開発分担者 (日本語) 国立大学法人 浜松医科大学 教授 尾島俊之  
所属 役職 氏名: (英 語) Hamamatsu University School of Medicine,  
Professor and Chair of Department of Community Health and Preventive  
Medicine, Toshiyuki Ojima

分担研究 (日本語) 研修プログラム開発, 愛知県担当  
開発課題名: (英 語) Training program development, Aichi prefecture charge

研究開発分担者 (日本語) 学校法人 日本福祉大学 准教授 斉藤雅茂  
所属 役職 氏名: (英 語) Associate Professor of Nihon Fukushi University, Aichi,  
Masashige Saito

## II. 成果の概要 (総括研究報告)

今年度は, (1) JAGES(Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクト 2016 年度調査, (2) 複数の市町村と共同した「地域づくりによる介護予防」の取り組み, (3) 「地域づくりによる介護予防」プログラムのプロトコール作成, (4) 評価手法開発, (5) 「見える化」システム活用・改善, (6) 研修プログラム開発をすることを目的とした。

(1) JAGES(Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクト 2016 年度調査を実施した。39 市町村と共同して, 約 28 万人弱に調査票を送付し, 2017 年 4 月中旬時点で約 19 万人から回収した (回収率 70.2%)。これによって「見える化」システムに搭載するデータ収集は可能であることが実証できた。

(2) 複数の市町村と共同した「地域づくりによる介護予防」の取り組みでは, 共同研究会などを通じて地域づくりを進め, 事例の蓄積を進めてきた。2015 年度版のプロトコール等を市町村に提示し, 有用性の検証や改訂に向けた論議を行った。具体的には, 武豊町や東海市, 神戸市, 常滑市, 松戸市などで, 地域づくりによる介護予防プログラムの導入・拡充, 及びそれらの評価に取り組んだ。また, 住民ボランティアや市町村, 地域包括支援センター職員などを対象にした研修会や「見える化」システムを活用したワークショップなどを開催した。そこで標準化を目指したプログラムの開発

や資料収集、プロセス・アウトカム評価等の経験と資料の蓄積と、最終成果物に期待されるコンセプトや内容のアウトプットイメージを共有した。

(2)「地域づくりによる介護予防」プログラムのプロトコル作成では、上述した市町村等において、ボランティア育成から、拠点開設・整備、拠点での介護予防事業運営を支援する一連の介護予防プログラム開発およびプロセス・(中間)アウトカム評価を試行した。そしてそれらの共通点とバリエーションをまとめたプロトコル案(平成27〔2015〕年版)の妥当性を検討した。サロンを見たことが無い人にもサロンの具体的なイメージが湧くようにするため、プロトコル動画を作成した。

(3)評価手法開発では、先行する武豊町や東海市、岩沼市などでの経験を踏まえ、プロセス、アウトカム、費用や効率、公平・公正などの視点から評価に必要なデータとそれを収集するための調査票の設計、データベースのフォーマット、指標の定義、報告書の様式などの平成27(2015)年版を用いて、データの収集を行った。(2)プロトコルと(3)評価手法については、地域特性や個別事情を反映したプログラムの多様性を許容しながらも、「地域づくりによる介護予防」プログラムの質(効果)や費用を他の市区町村と比較評価できるよう標準化し、「見える化」システムで公表することで、市町村毎、受託事業者毎のパフォーマンスを一定程度比較評価できるようにすることを目指した。

(4)「見える化」システム活用・改善では、地域包括ケア「見える化」システムを活用した関係者との共同研究を重ね活用事例を増やした。その過程で改善すべき課題を明らかにして、厚生労働省の地域包括ケア「見える化」システム検討会などで活用と改善に向けた提案をするとともに、独自に開発している「見える化」システムも改良した。

(5)研修プログラム開発では、住民ボランティア、市町村職員、民間事業者などを対象とする研修・教育に必要な解説スライド集、ワークショップ用の討論資料集と必要な時間配分などがわかるプログラム集、活用事例集などを、共同研究を進める市町村に試用してもらい、不足している要素等を明らかにして補足した。

This year, we have introduced the following:

- (1) JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study) Project 2016 survey,
- (2) joint efforts with multiple municipalities in the "prevention of long-term care by community development",
- (3) preparation of program protocols,
- (4) development of the evaluation method,
- (5) utilization and improvement of a "visualization" system, and
- (6) development of a training program.

(1) The JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study) project 2016 survey was conducted. With the cooperation of 39 municipalities, survey forms were sent to nearly 280,000 people and collected back from about 190,000 people as of the middle of April 2017 (collection rate 70.2%).

(2) Through collaborative research with multiple municipalities, we have increased cases of care prevention initiatives. We presented the 2015 version of the protocols amongst other documents to municipalities and discussed concrete measures to validate and revise their usefulness. Specifically, in Taketoyo Town, Tokai City, Kobe City, Tokoname City, and Matsudo City, , We also organized training sessions for regional volunteers, municipalities, and regional comprehensive support center

staff, and workshops. We also developed programs for care prevention initiatives, collection of materials, and process outcomes. We shared our experiences of evaluation, accumulation of materials, and output images of the concept and contents expected of the final product.

(2) In preparing protocols for the "Preventive Long-Term Care by Community Development", which is a series of care prevention program development and process (intermediate) programs aimed to support the management of nursing care prevention projects at the bases, and to establish and operate the bases, by the training of volunteers. We performed an outcome evaluation and examined the validity of the protocol plan (Heisei 27 [2015] year version). We created four movies so that even those who have never seen a salon could understand the protocol.

(3) Development of the evaluation method was based on the experiences of Taketoyo Town, Tokai City, Iwanuma City and other cities mentioned earlier. , The following data necessary for the evaluation was collected: process, outcome, cost and efficiency. We collected data using the Heisei 27 (2015) version including design of votes, database format, definition of indicators, and form of report.

(4) "Visualization". With regards to system utilization and improvement, collaborative research with stakeholders utilizing the regional comprehensive care "visualization" system has been repeated, and instances of utilization have increased. In this process, we clarify issues for improvement, present proposals for utilization and improvement at the Regional Comprehensive Care "visualization" system review meeting by the Ministry of Health, Labor and Welfare, and also develop our own "visualization" system.

(5) Training program development involves a collection of commentary slides necessary for the training and education of regional volunteers, municipal officials, contractors, and others. We enlisted the municipalities promoting collaborative research trial collections to clarify the missing elements and bridged these gaps.

## 成果の外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国内誌 2 件,国際誌 2 件）

1. Yusuke Matsuyama,Takeo Fujiwara,Jun Aida,Watt RichardG,Naoki Kondo,Tatsuo Yamamoto, Katsunori Kondo, Ken Osaka Experience of childhood abuse and later number of remaining teeth in older Japanese: a life-course study from Japan Gerontological Evaluation Study project, Community Dentistry and Oral Epidemiology,2016,44,6,531-539
2. Tatsuo Yamamoto, Jun Aida, Katsunori Kondo, Shinya Fuchida, Yukako Tani,Masashige Saito,Yuri Sasaki, Oral health and incident depressive symptoms: JAGES project longitudinal study in older Japanese. Journal of the American Geriatrics Society. 2016. In press
3. 近藤克則 健康格差社会への処方箋 医学書院 2017.01.15
4. 斉藤雅茂・宮國康弘・斎藤民・尾島俊之・近藤克則 (2017) 近隣住民による独居高齢者への見守り活動のプロセスと未充足ニーズの評価；見守り活動は支援すべき人々をカバーできているのか。「社会福祉研究（鉄道弘済会）」（印刷中）
5. 近藤尚己 健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点 医学書院 2016

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表

1. 「健康交流の家」開設による健康への効果検証(第1報)事後的調査における交流機会と主観的健康観の変化社会医学研究 口頭 近藤克則 細川陸也 伊藤美智予 宮國康弘 水谷聖子 肥田佳美 後藤文枝 阿部吉晋 柘植由美 早川祐子 半田裕子 青木祥太 川角智子 尾島俊之  
第57回日本社会医学会総会 草津市まちづくりセンター 2016/8/6/ 国内
2. 「健康交流の家」開設による健康への効果検証(第2報)縦断調査における社会参加と活動能力の変化 口頭 細川陸也 近藤克則 伊藤美智予 宮國康弘 水谷聖子 肥日高美 後藤文枝 阿部吉晋 柘植由美 早川祐子 半田裕子 青木祥太 川角智子 尾島俊之  
第57回日本社会医学会総会 草津市まちづくりセンター 2016/8/6/ 国内
3. 地域包括ケア時代の介護予防 近藤克則 第58回日本老年医学会学術集会 金沢市 2016年6月9日 国内
4. 斉藤雅茂・近藤尚己・相田潤・近藤克則: 高齢者の社会的孤立および閉じこもりに関連する地域環境の特性; JAGES プロジェクト 2013 横断データより 『第58回日本老年社会科学会』. 愛媛県松山市. 2016年6月 国内
5. Saito Masashige: Social capital, social isolation and housebound. 8th International Society for Social Capital Research (ISSC) meeting. Sapporo, Japan. May, 2016.
6. Naoki Kondo:(Symposium) Evidence on social determinations of health: Japan's successes and challenges 48th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference, 口頭・国内 Sep.17,2016, Teikyo University Itabashi Campus, Japan

(3) 「国民との科学・技術対話社会」に対する取り組み

1. 健康寿命を延ばすための秘訣,尾島俊之,浜松市,2016年5月28日,国内
2. 科学的根拠(データ)に基づく施策展開の重要性について,尾島俊之 奈良市,2016年9月7日,国内
3. わがまの健康格差対策をどう進めるか,尾島俊之,宇都宮市,2016年12月5日,国内
4. 健康なまちづくりに向けて 近藤克則 健康社会と空間・まちづくりシンポジウム 文京区 2016年6月14日 国内
5. 貧困はどのようにして健康に影響するのか 近藤克則 第2回貧困と子どもの健康シンポジウム 2016年12月4日 文京区 国内
6. 高齢者とうつ:健康格差社会への挑戦 佐々木由理 八千代市ふれあい大学健康福祉コース. 千葉県八千代市. 2016年9月9日.国内
7. 社会参加で健康長寿:生涯大学校から始める地域活動と健幸華齢 辻大士 千葉県生涯大学校外房学園・学園企画講座(2). 千葉県茂原市. 2016年9月28日.
8. 予防カルチャー:暮らせば健康になるまち. 近藤克則. 第6回世界健康首都会議. 長野県松本市. 国内 2016年11月11日.
9. 健康格差と老人クラブ活動. 近藤克則 平成28年度第2回友愛活動研修会. 神奈川県横浜市. 国内 2016年11月14日.
10. 健康格差になぜ取り組むべきか 近藤克則 いのちと暮らしを脅かす安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会連続企画第二弾健康格差社会にどう向き合うか憲法が危ない!健康も危ない! 東京都渋谷区 2016年11月26日.国内

11. 高齢になっても安心して暮らせるまちづくり：常滑市に必要なまちづくりのために,今私たちが  
できることは. 近藤克則 平成 28 年度常滑市介護予防・生活支援体制整備事業 公開講座(一般  
向け). 愛知県常滑市. 2016 年 12 月 2 日 国内
12. 社会環境と健康：老後うつも,お茶して笑って回復?? 佐々木由理 ボランティア講座 2016.  
千葉県船橋市. 2016 年 12 月 9 日国内
13. 日本における口腔の健康格差 相田潤 長崎子供の歯を守る会 長崎フロリデーション協会シ  
ンポジウム 2016 年 11 月 27 日 国内
14. むし歯になる人の地域差は 2 倍以上！ 歯みがきだけでは防げない歯の病気 愛知医科大学  
健康を守る医師・歯科医師が語る,健やかな生活のための街づくり 相田潤 2017 年 2 月 4 日  
国内
15. 健康と暮らしの調査結果説明・災害に備えることは,尾島俊之・細川陸也,東海市（千鳥健康交流  
の家）,2016 年 8 月 28 日,国内
16. 「山梨県民はなぜ健康長寿?元気を増やす「つながり」の力」山梨県立文学観」, 近藤尚己, 平成  
28 年度健やか山梨 21 推進大会, 2016/12/3, 国内
17. 神戸市地域・職域セミナー「気づかず健康になる職場づくり～職場のちょっとした工夫に"効果  
“があった～」 近藤尚己 神戸市民福祉交流センター2017.2.24,国内
18. 第 39 回近畿地区市町村保健師研修会特別講演 「公衆衛生における地域力の醸成」和歌山県和  
歌山市 ホテルアバローム紀の国 近藤尚己 2016 年 11 月 8 日 国内

#### (4) 特許出願